

4月 13日 1983年

ロバート エイトケン 老師
ダイヤモンド 僧伽
マウイ禅堂
911カウパカルア
ハイク ハワイ

親愛なるエイトケン老師

貴方の1月の手紙に対する返事が斯様に遅れました事をお詫び申し上げます。その後ウエスティン夫人から便りはありません。彼女の事は破棄されたものと思っておりました。貴方へは最終の結論的な手紙を差し上げたいと思っており、貴方もよくご存知の友人達も島野スキャンダルを非常に心配しておられるようでしたが、実を申しますと私自身やす子と島野タイ栄道の見下げ果てた世界に我が身を投入する事が出来ませんでした。この2ヶ月というもの3人の尊敬すべき友、大菩薩の方々は死んでしまいました。彼らの美しい生命と島野の卑劣さは比較するも思うにあまりあるものです。さりながら、ウエスティン夫人の10日前の電話によれば、かの記事は破棄されてはおらず小冊子 “村民の声” 4月20日号か4月27日号に掲載される予定との事です。私はかねてよりの計画で4月16日より24日までテキサスの親類を訪ねます。もし記事が20日に掲載されることになれば私は当地にはおりませんので事務のエレイン ハレット夫人にこの小冊子を1部貴方のもとへ送るよう頼んでおきました。もし、此の記事が翌週掲載された場合は私が自らお送りさせていただきます。

貴方が変わらずに大菩薩禅堂およびニューヨーク禅堂正法寺の僧伽会員達の受難をご心配下さることは私達を力ずけてくれます。この6ヶ月というもの、あの大錠が頭上に落ちて以来、貴方もお察しの事と思いますが、個人またはグループのほぼ全員、裏切られた思いで深く傷つきました。特に無の関所をまだ通っていない人々にとってはとりわけ “何もかもこれでいいのだ” と納得することは難しく、およそ不可能なことなのです。殆どの者は知力の上ではなんとか妥協して白隠の “この我が身こそが仏なのだ” との確信に真実を見いだそうとするのですが、これを受け入れるには信頼という基礎があったの事、多くの者はすでに島野の行状を目撃して信頼を見失っております。とりわけ昨夏、そうえん老師が禅堂をおとずれたときの島野とやす子の残酷な扱いを見た後は信頼の存在も疑わしくなっております。私の最初の仏教の師はアスヴァゴサの偉大な書 “大乘における信頼の目覚め” と翻訳したのはまがいであるとお申しました。彼はサンスクリットのスラダを信頼と訳すのは正確ではない、スラダとは躍動的な個人体験をもとに、さらにそこに留まることなく、それを超越してゆくものであるといひます。私はこの状態は今のこの禅教団にぴったりあてはまるものだと思います。我々の多くは大なる信義を持っております。中の何人かはすでに悟りに至っております。このたび大難を被るにあたり、多くのひとは幸運にもニューヨークの他の禅堂に落ち着く場所を見つけました。ある人はファースト ゼン インステイテユートへ、他はリバーデールセンターへ、他は曹洞宗のときゅう老師のもとで座禅をいたしております。又ある者はチェルシー禅堂、これは数年前ニューヨーク禅堂を去った人によって建てられたものです。又多くの方は美しい場所である事、便利であるという理由でニューヨーク禅堂に残って座禅を続けています。高名な医者であり禅者でもあるひとりのメンバーはタイさん（島野老師）に大きな憎悪を抱いているためタイさんの現れる日はあえて避けて、それでも坐禅に通っていると手紙を書いてこられました。一部の人はそれぞれの理由で坐禅を諦めてさってゆきました。これらはすべてタイさんの良識を外れた行状の結果で、最も深刻な損害の一つといえましょう。それでも未だタイさんに信頼を持ち続けている会員がニューヨーク禅堂にはおります。ウエスティン夫人の記事にたいして此の人々がどのような反響を示すか、勿論私には分かりませんが推量するに彼女の集めた多くの明白な証拠書類を見せられておおきな打撃を受けるであろうと思います。彼女は記事に関して詳しい事は何も私には話しませんでした。私の知る所では非常に多くの人に面接し相談しタイさんの無謀ぶりを目撃した人々の失望、反感を書き集めたもので、反響の大なることを期待しています。

ニューヨーク禅堂の仏教徒でもある友人や他の地域の僧伽の人々にとって一番理解に苦しみ、不審に思うことはそうえん老師や他の師家の方々がなぜタイさんの不行跡を問題視しないのかということです。

貴方が卒直にこの実情に対する意見を発表する時が来たと、やっと立ち上がられたことは、私達にとって此の上ない安堵です。他の老師、師家の方々も書簡によりまたは電話を下さり、彼らにとっても行き着く所に行き着いたという確信を述べておられました。数週間前マーゴ ウイルキと彼女の夫と夕食を共にいたしました。此の時彼女は修道会士デイヴィド ステインドル ラストと交した会話をはなしてくれましたが、かれはタイさんを国連で行われる研究会から除去するべきであると主張、国連でもそのように計画しているとのこと。彼はタイさんの存在は国連にとって恥辱であると思っているようで、マーゴがいうにはデイヴィドはもはやタイさんと共に講壇には絶対に立たないそうです。タイさんの病気はかくも悪化し、やす子の影響による妄想も加わり、私が推察するに人々の諫め、抗議等は彼の耳には入らないと断言いたします。私が手紙を送った後、彼はニューヨーク禅堂の3階の会議室へ話しがあるから来るように連絡してきました。そうえん老師が前におっしゃったことですが、もし誰かの事でよいことを言うならばその人の背後で言い、悪い事を言いたければ面前で言え、との言葉は常に最善策と心得ておりましたから喜び勇んでとはいえませんがとにかく承知して会いにゆきました。会うなり彼は我々の前回に置ける会合において私にはっきり言った事について嘘、偽りを述べはじめました。私は席を立ち “貴方がそのような嘘偽りを並べるなら話し合う余地はない” と申し急な階段をおりはじめました。彼は慌てて足早に追ってきてこの危険な階段のもとで一寸としたつかみ合いになりました。私は思わず叫んで “そうえん老師は貴方を愛しておられるのですよ、私もです、我々はみんな貴方を援助したいのです。” と申しますと彼は怒鳴り返して “愛のことなど言うな” そう言う彼の目を見た時私はぞっとしました。多分私の生涯で一番恐ろしい一瞬だったとおもいます。それは何も無い空洞だったのです。私の一切の感情、慈悲や敬愛、すべて消え失せ、忘れ去られ、哀れな、不幸せな男がそこにあるだけでした。

私にとって貴方や他の多くの老師、師家の方々が私の側で力ずけて下さる事にこの上ない安らぎをおぼえます。我々の多くはクレステイスコンプレックス（ギリシャ神話：母を殺した罪により追われた）とも呼ぶべき心境に悩まされております。此れまで師であった人とかくの如き関係に落ち、処分を進めることは彼を傷つける事でありひどいことだとおもいます。彼は精神病患者であり我々は考慮の限りをつくして効率的に進めると自らにいきかせてもこの思いは深くのこるでしょう。権威筋では “彼を権力の地位から外し以後絶対に長たる権威の地位を与えてはいけない” といっております。この基本的な考えは変わりません。貴方が私達を支援して下さり、他の老師方もタイさんの行動は許されないとして支援して下さる事は、この上ない安堵です。

南無大菩薩 南無大菩薩 南無大菩薩

合掌

ジョージ ゴウナス